

## 第6回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2012年9月23日（日）10:00～12:00

〔場 所〕生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川 清（会長）、小川 久江（副会長）、岩本 陽児、押村 宙枝、川島 演、佐合 昭浩、  
菅谷 万里子、富川 尚子、中村 香、並木 修、西原 要四郎、柳沼 恵一  
以上 12名

事務局：熊田センター長、小林課長補佐、丸山主事（記録）

〔欠席者〕黒田 順子、竹葉 かほる、辰巳 厚子

〔傍聴人〕1人

〔資 料〕・第6回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2012年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート資料1～10
- ・センター長報告
- ・平成24年度 東京都公民館連絡協議会委員部会

### ○ 生涯学習センター運営協議会委員の委嘱及び自己紹介

#### <協議事項>

##### 1. 生涯学習NAVIについて

会 長：今後の特集号やコラムをどうしていくか、何かご意見はあるか。次号のコラムの執筆は岩本委員にお願いする。

事務局：生涯学習NAVIは、2カ月に1回発行している。12・1月号では、生涯学習センターまつりの報告をトピックスとして掲載したいと考えている。コラムを入れ、みなさんに読んでいただけるものを掲載していきたい。生涯学習センター運営協議会委員の方々に何か寄稿していただければと思う。特集は、年間予定を立てて掲載していきたいと考えているので、ご意見があればお願いしたい。

会 長：生涯学習センター運営協議会の報告を掲載できればいいと思う。2013年度生涯学習センター事業についても、短期的な議題と長期的な議題とに分けて考えていきたい。

副会長：私達自身も自分の役割や存在を学んでいるところであり、この1年を通して自分たちがどう話し合っていけばいいのかが分かる。今は見えない部分が多い。体感しながら、次はどうすればいいのかを生み出せたらと思う。

会 長：具体的に提案できない段階でも、みなさんの思いがあると思う。それを集約できればいいと思う。職員側もスタートしたばかりというのは同じである。その表れとして、あり方検討委員会を開いている。その内容を我々にも開示していただき、それに対する生涯学習センター運営協議会の意見をフィードバックできると思う。

副会長：あり方検討委員会で話されている内容を聞くのも参考になると思う。

会 長：10月の生涯学習センター運営協議会では、あり方検討会の報告をお願いしたい。それを見て、我々も方向性を考えていきたいと思う。

委 員：生涯学習センタートピックスは従来からあるのか。生涯学習センターで開催されたイベントに参加した方の感想を掲載しているが、この意図はどのようなところにあるのか。

事務局：今回のトピックスの研究交流フォーラムや夏休み子どもフェアは一元的なイベントということで、報告させていただいた。HAPPY子育てライフは、乳幼児を持つ保護者のための家庭教育学級という講座があり、その中でどんなことをしているのかが分かるように掲載させていただいた。今後も生涯学習センターで実施している事業をこのような形で報告していきたいと思う。以前は、「公民館だより」を発行していたが、編集委員が取材をして、イベン

トの報告や感想を掲載していた。今は職員が編集をしている。トピックス等で生涯学習センターがどんなことをしているのかを紹介ができるのではないかと考えている。

委員：「公民館だより」は以前発刊されていて、公民館事業の情報の発信の一つだった。その代わりに生涯学習NAVIであると思うので、生涯学習センターからの情報発信や参加者の感想等を発表されてもいいのではないかと考える。もっと深く意見を聞きたいという方に書いていただくという手もあると思う。

会長：「公民館だより」の編集委員は一般の方々か。

事務局：編集委員は5名。2名は公民館運営審議会委員であり、他は公募の委員である。そこに職員が入って編集等をしていた。

委員：前回、生涯学習NAVIのボリュームはどのくらいかと質問したとき、掲載リクエストは全て載せるという回答だったと思う。載せてほしい立場からすると、そのことが十分に伝わっていないと思う。その辺も検討いただければと思う。

事務局：現在、庁内はもちろん、庁外の大学やNPO団体等に情報提供の依頼をしている。繋がりができることによって、相手から情報を出していただける仕組みを作っている。今後さらに拡大していきたいと思っている。

委員：依頼された情報の校正はしているのか。

事務局：間違った情報を出さないように、確認はしている。

委員：46頁の和光大学の記事のページ番号が間違っている。締め切りや発行日等の掲載に関する依頼内容はどこに記載されているのか。

事務局：情報をいただく先には依頼を出し、そういった内容を記載している。

委員：生涯学習NAVIに掲載を希望する方はいつまでにどこへ提出ということを含めて書いたほうがいいと思う。新たな情報源を獲得することにもなると思う。ご検討いただきたい。

## 2. 2013年度生涯学習センター事業について

事務局：前回、あり方検討委員会の中間報告を提示した。あり方検討委員会は最終段階にきており、今月中に総括をして、報告していきたい。中間報告の中でお気づきの点があればご意見をいただきたい。

会長：現在、来年度に向けた予算を決める時期ではないか。

事務局：その時期である。生涯学習部の中で要求しているものに対して、担当部署から内示をされた。精査をしながら生涯学習部として予算を計上する形となる。来年度は、今のところ15%減となる。生涯学習センターは施設を維持管理する必要があり、その管理費を削るのは難しい。それ以外で工夫しながら予算を執行していかなければならないと考えている。

会長：公民館と市民大学が一緒になり、1つの目的として予算削減もあると思うが、その辺の予算戦略としては何かあるのか。

事務局：生涯学習センターの大きな事業として、公民館事業と市民大学事業、生涯学習課の一部を担っているが、2012年度当初はそれぞれの事業を精査して、生涯学習センターとしてスタートしたわけではなかった。1年をかけて事業を見直し、精査していきたい。そのためにあり方検討委員会を立ち上げて議論をしている。

会長：2013年度の事業については、10月に出来るあり方検討委員会の報告を見て、改めて議論ができればと思う。

事務局：2013年度については、生涯学習情報システムのポータルサイトがないので、専用のホームページを開設していきたい。これは生涯学習センターの経常経費ではなく、政策的経費として計上している。認められるかどうかはまだわからないが、来年度の目玉として実施していきたい。もう一つは、ボランティアバンク制度である。これは市民の方に人材登録をしていただき、地域へ講師を派遣する制度である。法の整備や個人情報の問題、仕組み等をクリアして、来年3月の運用開始を目標に準備を進めている。この2つが来年度の大きな事業になるのではないかと考えている。

会長：ポータルサイトは是非実現していただきたいと思う。

### 3. 2012年度生涯学習センター事業の企画について

(1) 資料1「市民企画講座 知っとく なっ得 介護のイロハ2」について説明。

(意見・質問)

委員：10月は介護予防月間であり、他施設でも関連のイベントがあると思うが、内容等の調整はしているのか。

事務局：調整はしていない。介護支援センターでもそれぞれ企画をしていると思うが、時間的に調整することが難しいこともあり、そこまではしていない。

副会長：市民が様々な場所を選べるということは意味があると思う。

事務局：介護支援センターは、それぞれの地域で実施している。内容が重複していたとしても、生涯学習センターで実施する意味はあると思っている。

委員：社会福祉協議会も同じようなイベントを実施していると思うので、調整をはじめたら大変なことになる。市民が様々な形でチョイスでき、様々な部門が実施することは門戸を広げるという意味でいいことだと思う。敢えて調整する必要はないと思う。ただ、他でも実施していることを把握していればいいと思う。

事務局：生涯学習センターで行う事業については、重複がないように調整していきたい。他部署との調整はなかなか難しい。今回は市民が企画した講座であり、その中で他部署との重複が出てくる場合もあると思うので、ご理解いただきたい。

委員：以前、公民館で1つのテーマに絞った市民企画講座を実施したときに、その少し前に男女平等推進センターで同じような団体を招いたイベントがあった。その直後ということもあり、定員が埋まらず大変な企画になったことがあった。企画によっては、他所がどの時期にどのようなものを実施したのか、調整したほうがいいと思った。

委員：ある程度の調整は必要だと思う。対象をどうするか、テーマを受講者のニーズにあったものなのかを考えたほうがいい。市民大学で行っている介護のコースは、介護を担っていく立場の内容だと思うので、多面的な目的を持ったものを用意し、全体としての効果を高めていくことも必要だと思う。この企画は主として、将来介護を受けることになるかもしれない高齢者自身と対象をはっきりしているし、その意味では良い企画だと思う。調整するというよりは、関係部署に呼びかけてPRすることが必要だと思う。

委員：調整するのは難しいと思うが、これを職員が全部やらなくていいと思う。市民企画講座なので、似たような介護に関する講座が町田市内にはどんなことがあるかを調べてもらい、最後に資料として提出させてもいいと思う。参加者も一覧があると勉強になるし、企画した人にとっても学びになると思う。企画した人はこのテーマに問題意識を持っているから企画したと思うので、他にどういうことが行われているのかを調べることはいいような気がする。市民企画講座の場合、調整すべてを職員がやるというよりかは、企画者に調べてもらうようにもっていけばいいのではないかと思う。

事務局：生涯学習NAVIでは様々な情報をもっているなので、市民企画講座を行うグループへ情報を流すことはできる。

委員：情報を流すのもいいが、自分で探す作業をしてもらうほうがいいと思う。

(2) 資料2「小学生を持つ保護者のための家庭教育学級」について説明。

(意見・質問)

委員：昨年の受講者の声を参考に今回の課題を取り上げたとあるが、前回とは変わっているのか。第1回目のテーマが「性教育を通して命の尊さを学ぶ」であるが、命の尊さを学ぶのに性教育でなければならないのか。内容はとてもいい。現在、子どもたちのかかわりが希薄になっているので、このような内容を学ぶことは学校もありがたいと思った。インターネットや携帯電話に関する家庭でのルールやマナーづくりは学校でもセーフティ教室の中で実施しているが、参加者が限られてしまう。

事務局：前回の受講者の声の中で、性教育を通して命の尊さを学ぶことを取り上げてほしいといった

要望があった。コーチングやインターネット・携帯電話は、前回取り上げていなかった項目である。これも昨年の参加者の声を生かして内容を組んだ。

委員：講師が大学の先生が多い。知識提供型の講座になりやすいので、そうすると期待できる効果が期待できなくなってしまう。講師の方には1時間程度の講演をしてもらい、あとは話し合いの時間にするといった設定はしているのか。なるべく、対話のできる講座にしたほうがいいと思う。

事務局：5回目はワークショップであり、他の回もそれぞれ話し合いの機会は設定されている。

委員：その辺を大事にいただけると公民館の講座らしい。

事務局：小学生を持つ家庭教育学級については、講座が終わった後にグループが結成されている。こちらからもグループ化を進めていきたいと思う。また、その辺を意識した講座内容となっている。

### (3) 資料3「サタデーライブ12」について説明。

(意見・質問)

会長：目標設定が80%となっているのは、楽器によって違うだろうということでこの設定か。

事務局：新ジャンルであり、効果指標も新しいので新たな設定ということで80%とした。

会長：今までのサタデーライブは、募集定員に対して参加状況はどのくらいか。

事務局：応募はいつも定員を超えている状況である。

### (4) 資料4「中学生を持つ保護者のための講座 親子のコミュニケーション」について説明。

(意見・質問)

会長：前はどうかだったのか。

事務局：昨年は回数を短くして2回講座だった。受講者は中学生を持つ母親が中心だった。働きに出る保護者が多くなり、回数が多くなると連続して受講できないという話があり、2回とした。定員は達していたと思う。

委員：今回と1、2月に講座が予定されているが、それぞれの回ごとに募集をかけるのか。

事務局：独立して募集する。

委員：小学生講座のような、受講生同士の関わりの時間は少なくなってしまうのか。

事務局：受講者同士の繋がりを強めることは、難しくなってしまう。そこが弱点である。

委員：親としては参加しやすいと思うが、生涯学習センターでやる事業であるので、その辺のことも意識の中に盛り込んでいただきたい。

事務局：先に繋がり、学習を継続できるきっかけとなるよう、組み込んでいくように考えたい。

委員：一般論として聞くよりも、目の前にいる子どものことを聞きたい方は個人的に相談にいくと思う。そんなに困ってはないが勉強したい方に目標を絞っていると思われるので、このやり方でいいと思う。中学校の配布等のPR方法を検討するとあるが、学校でプリントを配っても親の手元には届かないという現実があるので、学校に配ればPRできるとは言いづらい。

事務局：中学校にポスター掲示をお願いすることはできるのか。

委員：できると思う。また、PTAに働きかけるのも一つの手段である。

### (5) 資料5「市民企画講座 自分を大切にしよう」について説明。

(意見・質問)

委員：講座の最後がまとめとワークであるので、4回参加することに意味があると思う。それならば、効果指標で「最後まで参加した」と設定してもいいと思う。

事務局：それは募集・参加状況のところで表現したい。受講率から判断して評価に結び付けていきたいと考えている。

委員：新しい企画でいいと思う。アルバイトやニート等、不安定な状況で暮らしている若者が対象になると思うが、その対象の方をどう集めるかはPRが難しいと思う。対象となる若者に伝える手段をどう考えているのか。

事務局：周知方法は広報、市のホームページ、市の施設へのチラシ配布等通常のルートを考えている。

委員：ハローワークは配布先になっているのか。

事務局：これまでハローワークへ周知をお願いしたことはない。

副会長：対象者にこの場へ出ていただくのが大変だと思う。企画はとていいが、対象者をどう集めるのが課題である。

事務局：これは市民企画講座なので、市民企画講座の主催者がかなり意識をもって集めてくるのではないかと思っている。生涯学習センターでもPR方法を考えたいと思う。

委員：ニートや引きこもりになってしまった方を対象にするのか、ニート予備軍を対象にするのかでずいぶん違って来る。本当になってしまった方は対象にしづらいと思う。モラトリアム系の方を呼ぶために、大学に協力を養成すれば来ると思う。

委員：期待できる効果は厳しい状況にある周りの人への効果であり、効果指標は当該の方を指していると思う。期待できる効果と効果指標にズレがあると思う。

委員：先ほどのPR方法だと、そういった子どもを持ち悩んでいる親の目にはとまると思う。そういう方にとっては、期待できる効果のほうになると思う。そうすると、自分を大切に思うことができない人を理解できた、接することができるようになったという効果指標にしないと難しいと思う。また、この講座に当人がきている他に、関係者の方も一緒であると、本人は2回目から参加しなくなってしまうと思うので、どちらかに限定したほうがいいと思う。

### 3. 事業実績について

(1) 資料6「親子星空教室 夏休み星空ガイド」について説明。

(意見・質問)

会長：必ず親子ペアでの募集か。

事務局：対象は一般である。ペアでなくても参加はできた。参加された方は親子参加のほうが多かった。

委員：次回は想定される年齢層に合わせたプログラム作りをしたいとあるが、来年度以降はもう少し上の子どもを対象にすることを考えているのか。

事務局：親子となると、小学校低学年を対象にした内容を考えていきたい。

委員：親子を外して4年生以上の子どもを対象にする方向性はないのか。

事務局：この事業の目的は、親子の絆づくりであるので、こういう形を取らせていただきたいと思う。

委員：親子の絆は大事だと思うが、そういった場合に寂しい思いをする子どもは町田市にどのくらいいるのか。

事務局：数値的に把握はしていない。町田市には相当数いると思われる。

委員：山崎中学校での一人親家庭の子どもは、学校で3分の1程度である。

委員：公的社会教育のミッションとして、社会的不利益を被る人たちに手厚くするという原則は大事にしていきたいと思う。

委員：小学校の学童保育のボランティアに行くと、話しているところへ来て、膝の上に座ってくる子どもが大勢いる。片親しかいない子どもの比率が24%と聞いた。小学校1、2、3年生が一番感性の高いときである。そういう子どもたちに対する思いやりや、一人ひとりがどの子にも同じように接してあげることがすごく大事なことだと感じる。

(2) 資料7「小惑星探査機はやぶさ2」について説明。

(意見・質問)

会長：この講演のターゲットはどう考えていたのか。対象によって話し方が違ってくると思う。

事務局：中学生以上はどの方でも理解できる内容となっていた。講演者は様々なところで講演をされているが、一般を対象にした講演内容となる。

委員：受講率が49%であったのは意外な感じを受けた。もっと関心があるのではないかと思った。応募者も92名と少ない。事務局として、少なかった理由はどこにあるかと思っているか。

事務局：1つは、はやぶさ2になるとまだそれほど関心が高くないということ。数年先の話になるの

で、まだ関心が高まっていないと思う。もう一つは、開催日である。7月22日は夏休み最初の日曜日であり、特に中学生が参加しにくいと思う。違う日であれば状況が違ったかもしれない。参加者は高齢者が多く、はやぶさ2に関心のある方が多かった。質疑応答では専門的な会話が飛び交っていた。

委員：事業内容の評価が、環境の変化により必要性が薄れていないかやや薄れているになっているが、それは実際に人が来なかったからか。それとも、はやぶさが帰ってきてからは時間が経ち、次が飛ぶにはまだ先だからという客観的な情報で判断したのか。環境の変化によって関心は薄れていないと思うし、逆に世の中の関心が下がっているときだからこそ、若い世代をどんどんその世界に導いてほしいという思いがある。こういう状況だからこそ必要性はあるという評価の仕方があると思う。なぜこの評価なのかを知りたい。

事務局：世の中の様々な分野やテーマがある中で、宇宙の小惑星探査機を3年取り上げたが、ここでまた違った、同じ科学のことをやるにしても違うテーマも考えられる。その辺をどうしていくかを検討課題にしたいと考え、B評価とした。

委員：宇宙科学はタイミングもあると思う。ひとつひとつを細かく見るといろいろと出てくるが、今回はまだ発表されていない分野であり、このような評価もあると私も受け取っていた。この問題は当然また出てくると思うが、将来に向けて必要性がある事業を提案すべきではないかと思う。

会長：事業が成功したという事業評価と、意義とにずれがある。意義がどう反映できる評価ができるかその辺も考えなければならない。

委員：評価からはずれているかもしれないが、先行き繋げるためにはそういう考えをいただいたらいいと思う。

会長：市民大学でも環境問題を扱うコースの受講者は年々少なくなってきているが、意義は当然あるので、そういった評価指標がうまく入れられたらいいと思う。単に出席率という問題ではない。

### (3) 資料8「乳幼児を持つ保護者のための家庭教育学級」について説明。

#### (意見・質問)

委員：評価の中で次に繋げるためにどうしていきたいかを書いていただけるといいと思う。来年度に企画するときには前年がどうであったのかが見えてくると思う。

事務局：次回どうしていくかに繋がるような検討をした上で表記をしていくようにしたい。

会長：8回連続で受講率が80%を超えているのは非常にいい。

事務局：乳幼児の保護者は繋がりやすい。新たに子どもができて間がないということもあり、人間関係を作ることを希望される方が多い。

副会長：需要が非常にあると思う。参加者の声を見ると、外へ出たい、人と接したいということが伝わってくる。もっとやってあげたい。

委員：担当者所見に、良かった悪かったという表現はいいと思うが、その下に改善点を付け加えたらいいのではないか。何が悪かったのかの原因を入れるとわかりやすいのではないか。

委員：職員はいろいろな事業を担当しながら力量を高めている。そういう振り返りの機会になるような場を設定していただければいいと思う。職員が自分の育ちを自覚できるような環境ができるとこのセンターはもっとよくなると思う。

事務局：月1回、生涯学習センターでは館内会議を行っている。そこで情報を共有しながら意見を出す場がある。そのような話題を担当から出していければと思う。

委員：この事業はずっと続いており、例年1倍以上の応募があるように記憶している。毎年1月くらいに行っていたものをこの時期に変えたことは非常によい改善だったと思う。内容についても、受講者同士が意見交換でき、自分たちの状況を情報交換できた場であったような感想があるので、やはりいい形で継続していただけたらと感じた。

委員：事業プロセスの評価がBの理由を見ると、保育に課題があるように読めてしまう。保育士がこの評価シートを見るととてもつらいと思う。家庭教育学級そのものはAだが、保育がBだという読み取り方をされてしまう。1週間に1回の保育で子どもたちの交流や仲間づくり、

一人一人の性格を把握する等を期待しているようであるが、次回も果たしてそういう環境をつくれるのか、厳しいのかと思う。

委員：実際に子どもを預かっていた側の体験を言わせていただくと、子どもが同じ場所、同じ顔ぶれ、同じ保育者と接することは、預かり保育で毎回よその知らないところへ預けられ緊張し、ただその場でみていただくというよりは、預ける側としても安心感がある。また、子ども同士の、親と離れての成長があると感じる。回数は少ないが、その中での子どもが言葉にはできない得るものは非常に大きいものがあると思う。

委員：そうであるならば、B評価に疑問を感じる。高いところを期待してBなのかと思う。

委員：ここの保育士は非常に良くみていると思う。

委員：保育士の成果をBと読めてしまうが、間違っているのではないかと思う。

事務局：保育士の賃金の問題等もある。保育士が保育を行う意義は、こういったものも踏まえながら検討していきたいという意味合いがある。一部改善の余地がある項目であるが、保育士にはどういう役割や効果があるのかを再確認、再検討して、今後の事業を考えていきたい。

会長：評価シートの誤解を与えない書き方があると思う。

委員：募集定員20名に対して、応募者が36名あったということは、それなりに悩んでいるお母さん達がいる。予算の関係もあると思うが、この事業は是非増やしていただければと思う。

事務局：生涯学習センターでは利用層の拡大を目指しており、特に若者や子どもを持つ親に利用していただきたいと考えている。この家庭教育学級は、保育付きであるので、費用がかかる。その点も含めて、これから考えていかざるを得ない。事業をなくすことは考えていないが、拡大するとすると、予算的な問題もあるので、そこは改善していければと思う。

委員：大学で保育士を目指して勉強しているような、保育士の卵である方々にボランティアとして来てもらうことは可能か。

事務局：今まで行ってきた保育室の内容は、保育士がきちんとお子さんを見て、子どもも親とともに成長できるようにするというコンセプトである。保育士には保育をしていただいておりますが、託児ではない。ご意見のような方法もあるが、そうすると保育ではなく託児としてPRしなくてはいけない。今までの保育の考え方を変えていく必要がある。

委員：それは可能なことか。

事務局：これから事業を執行していく上では、そういったことも考えていくべきであると思う。

委員：それを実際に行っている学校もある。高ヶ坂小学校の保護者会等では、ボランティアグループが子どもを預かっている。他の教室で子どもを見て、子どもが泣き出して困ったときは、親を呼びにくることもある。ボランティアグループには高齢の方もいる。様々な方法があるので、検討していただければと思う。

委員：川崎市の公民館では、保育士の資格を持つボランティアグループが面倒を見ている。年配の方がいるので、お母さん達が安心して子どもの育て方やしつけ方の相談ができるというところで評判がいい。ぜひ検討していただければと思う。

#### (4) 資料9「浴衣の着付け講座」について説明。

(意見・質問)

委員：資料8の保育の評価の受益者の公平性がBだったのは、36名の応募があって20名しか見てあげられなかったからだと思っていたが、ここでは13名でAになっている。評価の方法が良くわからない。少ない人数にこれだけのコストをかけてA評価であるなら、資料8の保育がB評価になる理由はなかったのではないか。

会長：これは受益した方の中での公平性になる。

事務局：資料8は定員20名に対して応募36名であり、希望が叶わなかった方がいるという意味合いもある。

委員：資料8はみんなの希望が叶えられなかったからB評価であり、こちらは様々な年齢層の方が参加でき、また、受講者全員が生涯学習センターの講座を受けたのが初めてだったということもあるのではないかと思う。この講座は、若年層の方に公民館を知ってもらいたいということで始まった講座である。利用者に若者が少ないので、若者を呼び込みたいという目的だ

ったと記憶している。その意図から考え、A評価になったのではないかと思った。

委員：効率性と妥当性ではC評価になっているので、そこでカバーしているのが納得できると思った。前年の受講率はどうだったのか。

事務局：前年は、年齢を限定していなかった。今回は事業の目的を明確にするために30歳以下とした。前年のほうが応募者は多かった。この事業は何年も続けており、年々申込者が下がっている状況である。

事務局：着付け講座については、この下に浴衣等の店舗がある。店舗と打ち合わせをしながら、そこに来ている方に講座へ参加していただくことを考えてもいいのではないかと担当者とも話した。ここだけで実施すると受講者が減る傾向があるので、店舗に来ている方に参加していただけるような方法もあるのではないかと考えている。

会長：そういった指導者に、ボランティアという形はできないのか。

事務局：店舗の方に講座をしていただくことは難しいと思う。

会長：商工会としてやっていただくのはどうか。

委員：本当に着付けが必要な方は、民間にも着付け教室があるのでそこへ行くとする。そういう中で浴衣の着付け講座を生涯学習センターで行う必要性はいかかなものかと思う。

委員：中学校では家庭科の授業の中で和装がある。以前、第三中学校では、授業で学年全員が浴衣を着たことがあった。着付けサークルの方が無料で指導したが、子ども達が着た浴衣をクリーニングするのにかなりの費用がかかり大変だったという話を聞いている。それから実際に着る場面は少なくなってきたという実態がある。教科書では和装の着付けをやるが、実際に着る場面がない、やれないという子どもたちのためには、こういう着付け講座があってもいいと思った。事業コストの内訳にクリーニング代がなかったが、かなりのウエートを占めているのではないかと感じた。

事務局：講師にお支払いする報償費の中にそういった費用が加味されていると思う。

#### (5) 資料10「夏休み子どもフェア」について説明。

(意見・質問)

会長：これは新しい事業か。

事務局：今までも実施していた事業である。今回、8月26日に開催したのは、夏休み最後の日曜日ということで、参加しやすい日ではないかという想定である。児童青少年課で夏休みの催しを載せた冊子を作成しているが、そこに夏休み子どもフェアのチラシを挟んでいただいた。小学校の全生徒に配布したので、効果は絶大であり、想定外の人が来館した。来ていただいた方を職員がうまくさばけなかったのも、そこは大いに反省すべき点だと思った。

委員：大勢の方に来ていただいたことは嬉しいことであり、今まで生涯学習センターに来たことがない子ども達も来たのではないかと思う。その子ども達がまた生涯学習センターに来たいと思うような企画があれば良かったと思うが、何かそういうことをしたのか。

事務局：プログラムは色々あったが、来ていただいた方全員に参加していただけなかった。大勢の方に実施しているプログラムを体験していただくこと、そこが一番大事である。体験していただくことで、おもしろさを知り、次にまた来たいと思っていただく、それができなかった。体験できるようなイベントを組み立てることが必要だと思う。

委員：これから、その予定はあるのか。

事務局：そのようなプログラムを作りたい。今回は来ていただいても定員で参加できない方が多かったのも、次回は定員のあるものは事前の申込み制にし、気楽に来ていただいた方も参加できる催しを多く企画できればいいと思った。また、非常にスタッフが不足していた。大学生やセンターを利用している方々に協力していただくことを考えていく必要があると思った。

委員：ある市では、子ども達が公民館に来て書いた絵を貼れるスペースを設けて、その絵に対してのコメントを公民館に来た人たちが書けるようにした。公民館に来る方はお年寄りが多いので、いいコメントをたくさん書いてくれる。子ども達はここに来ると自分の絵を褒めてもらえるので見に来るようになる、というような好循環ができる。スタッフが全部をやらなくても、来ている方を活用していくといいと思う。その場を作ってあげればいいと思う。

委員：実施目的の中に町田市の各地域で活動している方の活動を知ってもらおうとあるが、運営で何か協力を仰いだのか。職員が全て行ったのではなく、様々な催しをそれぞれの活動団体に割り振った形で運営されたのか。

事務局：職員がすべて企画したわけではない。子どもフェアを行うにあたって、様々な意見や協力をしていた。

委員：とてもいいことだと思う。公民館が行うイベントの意義は、地域の方と様々な人を結びつけることが大きな目的である。今回、そこがうまくいったのであれば、何がうまくいったのか、また改善すべき点は何かを含めて評価していただきたいと思う。

## 5. その他 特になし

## <報告事項>

### 1. 事業の最終報告

(意見：質問)

委員：最終的な評価が入っていないのは、今日を踏まえて決めるということか。

事務局：最終評価はセンター長の総合評価である。資料1と資料3については、オープニングイベントであるので、継続、廃止等の評価ができない。

### 2. センター長報告

#### (1) 教育委員会について

9月4日に開催され、運営協議会委員の委嘱について提出し、承認をいただいた。次回は10月5日に開催される。生涯学習センターまつりについて報告する予定である。まちだの公民館発刊の報告は11月にしたい。市議会について、一般質問で質問があった。11年度の決算について、明日決算委員会が開かれる。

#### (2) その他

センタービルのポスター掲示について、エレベーターの内部と1階のエレベーターホールにできるように話を進めている。教育プランについて、来年度中に改定をする。庁内で作業部会を結成し、作業を進める段階にきている。基本プランの施策の方針、主要事業の取り組みと、重点プランの2014年度からの取り組みについて改訂していく。庁内あり方検討委員会については、今月中に報告していきたい。全国大学研究交流フォーラムが9月1日に開催され、石阪市長がパネルディスカッションに参加した。来年度の重点事業の理事者説明について、情報システムとボランティアバンクについて説明する予定である。青年学級の合宿について、本日土曜学級の合宿が行われている。この後、10月6、7日にひかり学級、11月17、18日に公民館学級の合宿が予定されている。生涯学習センターまつりについて、10月19日から21日の3日間で開催される。

### 2. 東京都公民館連絡協議会の活動について

委員：9月10日に国立市公民館で第6回運営委員会があった。内容は第2回研修会の運営についてである。10月6日(土)13時半から16時まで、国立市の公民館で開催される。今回は1時間の講演とグループ討議をする予定である。テーマは「地域社会の変化とこれからの公民館の役割を考える」、講師は田無公民館長小笠原氏にお願いしている。対象は公民館運営審議会委員、職員、一般の市民である。申込みは9月28日までに部会長へ報告する。また、第3回研修会を2月11日に予定している。テーマの候補は「厳しい財政状況の中での公民館」。

予算が年々削減されているなか、どうしても譲れない活動は何かを話し合いたいと考えている。シンポジウム形式で、各市の事例報告等を行うことを考えている。

### 3. その他

会 長：今後の生涯学習センター運営協議会の日程について、第7回は10月23日（日）18時から、第8回は11月27日（火）18時から、第9回は12月16日（日）13時からを予定している。

委 員：生涯学習NAVIの生涯学習センタートピックスで青年学級のことを掲載してもいいと思う  
また、都公連についても載せていただければと思う。